事業所における自己評価結果（公表）

公表 ： 令和5年　3月3日　　事業所名　ADDS Kids1st荻窪

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	支援は個室で行い、1人ずつの支援スペースが確保されている。	保護者が待機する椅子が足りない場合があるため、保護者用の椅子や待機スペースも十分に確保したいです。限られた空間のため難しい面もございますが、保護者用の椅子や待機場所は今後予算の検討もしながら、改善していきたいと考えております。
	②	職員の配置数は適切である	8	0	欠勤の職員がいる場合に、他の職員を配置している。／何か問題や困ったことがあった際にすぐに別の職員がかけつけてくれるのが安心して行うことができる。／心理師や保育士など専門的な職員が常時いる。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	0	トイレスリッパを置く位置を写真で示している。／トイレに踏み台を設置したり、スリッパを揃えて置けるよう写真を床に貼っている。／棚におもちゃを置けること、段差が少ないこと、部屋に番号があるところなどが工夫されていてやりやすいです。／物が整理整頓されている（置く場所の印がついている）／支援を行う個室には不要なものは配置・掲示せず刺激が少ない環境にしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	毎日支援終了後に職員で施設全体を掃除している。／暖房を使う時期は加湿器を設置し、湿度を保てるように心がけている。／窓を開け換気されているのがいいと思います。窓はお子様の身体がでないように工夫されているのが安全に行うことができます。／毎日清掃を行い清潔を保っている。各部屋にエアコンが完備されており個人に応じて室温を調整できるようになっている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9	0	定期的に個人で振り返り、支援者同士・スーパーバイザーと共に振り返りを行なっている。／常勤職員は定期的にミーティングを行い業務の把握と改善を図っている。	非常勤職員は業務改善のミーティングに参画できない場合もあるため関連のある業務については今後より参画できるような環境を整えていきたいです。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	去年も保護者からのアンケートで課題やご意向について頂いた際、環境整備などのすぐに改善できることは管理者が率先して動いて改善してくれている。／保護者等向け評価により得られた改善点は即座に改善に努めるようにしている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	7		現在第三者評価を行っていないため、今後外部評価を依頼するか等検討致します。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	支援に入る前に研修を行っている。／研修というか定期的に振り返りをSVと行う／月に複数回のスーパーバイズや、職員間フォローによる支援スキルの向上、法人内での研修による知識獲得の機会が多くある。	今後、さまざまな研修を充実させていきたいです。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	1	定期的に発達検査や適応行動尺度、質問紙等の標準化されたアセスメントツールを用いてお子さんや保護者の現在の様子を把握し、計画や支援に反映している	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	研修を受けたスタッフがアセスメントを取っている。／新版K式発達検査、Vineland対応行動尺度等のアセスメントツールを主に用いている	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択	5	0		全ての項目を網羅することは難しい部分もございますが、利用者様のニーズに応じた計画が作成できるよう、善処していきます。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	半年ごとの計画の見直し以外にも、お子さんへの支援内容は毎週～1ヶ月に１回程度見直す機会を設けている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	スーパーバイザーや支援者同士で相談して決めている。／チームというかSVと相談して課題内容の方向性の確認を確認する。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	子ども毎に作成している。／発達にあった内容に更新し、ぴあ活動は子どもの様子を見ながら変えている。／お子さんの様子に合わせて毎週～月1程度支援を見直す機会を設けている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7	1	ご家族のご希望に合わせて個別指導か集団指導かを提供している。／保護者からの要望があれば他のお子さんと一緒に活動を行うプログラムにも参加できる。その場合は支援計画にも内容を反映している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	2	支援者が複数いる活動では行っている。／2人のスタッフで行う支援は事前に打ち合わせをしている。／集団指導では必ず行なっている。／複数名の職員が担当する場合には行っている。	個別指導が中心のため打ち合わせを行わない場合もありますが、定期的に内容を別の職員が確認する機会を設けて改善を図っています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	1	SVとの振り返りもしくはセラピスト同士の振り返り時間が毎週設定されている。／職員間で行う日と個人で行う日を併用している。／振り返りを行い、変更点が必要なところの確認等を行っている／スタッフの複数入る集団指導では必ず行なっている。個別指導でも、定期的にスーパーバイザーや他の職員と振り返りを行なっている。／複数名の職員が担当する場合には行っている。スーパーバイザーが支援に入った際も振り返りの時間を十分に確保し、次回以降の支援に繋げている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	記録では、＋－のほかに、なるべく数行程度メモを取り、セラピーの再現性を促進できるよう努めている。／タブレットや記録用紙に支援情報を記録している。／AI-PACを使用していることで、視覚的にデータがわかりやすく、支援の検証・改善につなげられている。／課題の1施行ごとの記録をつけている。記録はオンライン上で記録をつけたり、保護者と共有ができる自社開発システムを用いている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0		
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	その子供の状況に精通した職員が出られるようにしているが、サービス担当者会議が開催させる機会自体があまりない。	今後サービス担当者会議が開催される際には、お子さんの状況をよく知っている職員が参加したいと考えております。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	2	今後連携等、必要に応じて方法を考えたい。／遠方の様々な自治体から通所されている方も多く、地域の関係機関と連携する機会は少ないかもしれない。	今後連携の体制を整えていきたいと考えております。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	1		看護師を配置しておらず、医療的ケアを行う必要があるお子さんの受け入れを行っておりません。今後体制が整った場合には検討します。
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	1		看護師を配置しておらず、医療的ケアを行う必要があるお子さんの受け入れを行っておりません。今後体制が整った場合には検討します。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	保護者の方が希望された場合には連携を図っている。	お住まいの自治体から当事業者が離れているという方も多く連携のご要望自体は多くはありません。ただし現在は機会が少なく、情報共有や連携に関しての周知自体もできていないこともあるかもしれません。その時に応じて対応が異なる場合もあるため、連携の仕方に一定のマニュアルなどが作れるといいかもしれないと考えております。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	3	就学前のお子さんは保護者が希望されて場合は、就学先に情報共有するための書面を作成している。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	区の研修に参加している。／杉並区の研修会などに参加している／地域の研修会に参加している。／杉並区内の研修に参加している	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	6		ADDSでは機会を設けていないが、保育園や各地域のコミュニティに参加しているご家庭が多いです。お子さんご本人やご家庭からのニーズが多くあった場合検討致します。
	㉙	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5		地域から通っているお子さん自体が少なく、現状あまり機会がもてていません。機会があれば積極的に参加したいと考えております。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	保護者との引き継ぎ時以外のコミュニケーションを取るようにしている。／発達検査や行動観察でのアセスメントを行い、保護者と共有している。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	8	0	どのご家庭もペアレントトレーニングを含むプログラムに参加いただいている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	利用開始時に口頭と書面にて説明を行なっている。改訂があった場合も書面にて変更を伝えている。	非常勤職員、勤務日数が少ない職員についても運営規定や利用者負担等の理解を図っていきたいです。
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0		すべての職員が児童発達支援計画の内容や、ガイドラインについて理解を深めていけるように今後説明の機会を設けていきたいです。
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0		ペアレントトレーニングを含むプログラムでは、毎回相談できる機会がある。ご要望がある場合には相談に乗っているが、相談に乗ることができることを広く掲示するのも良いかもしれません。相談支援の体制づくりや利用者様への周知等、今後の課題としていきます。
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	オンラインで交流の場があるが、十分ではないかもしれない。／任意参加ではあるが同期のご家庭と一緒に研修を受けて顔を合わせる機会がある。ただし現在は感染症拡大の影響によりオンライン開催である。	コロナ禍になり、対面だった保護者への研修がすべてオンラインになったので保護者同士が交流する場はオンラインによる研修に限られている現状です。交流のニーズにお応えできるよう、ただいま方法を検討しております。
	㊱	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0		
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	3	法人内での活動について年に一度お知らせしている。	法人のアニュアルレポートやSNSがございますが、さらに周知していきたいです。
	㊳	個人情報の取扱いに十分注意している	9	0	個人ファイル、実施記録は手元から離さない、持ち出さない。	個人情報の管理について、引き続き職員に周知していきたいと考えております。
	㊴	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0		
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6		現在は、地域向けに事業所の行事を催していません。今後地域に根付いた開かれた運営について協議・検討していきたいです。
非常時等の対応	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0		感染症マニュアルなどを今後充実させたいです。
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	実際のシチュエーションを想定した訓練や、避難場所を確認する等備えている。	怪我をした時にスムーズに対応するための共有が必要という声がありました。怪我をしたときの職員の対応など、想定する場面をふやして訓練を行っていきたいと考えております。
	㊸	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0		服薬や、持病の有無等の確認を定期的に行うようより一層周知していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	㊹	食物アレルギーのある子どもについて、医師の 指示書に基づく対応がされている	5	1	食事の機会があまりない。アレルギーは保護者にシートを書いていただき共有して頂いている。おやつをあげる際は、都度保護者に確認をしている。	現状食事の機会はあまりありませんが、医師の指示書そのものではなく保護者からの聞き取りで対応しているため、もう少し内容を詳しく聞き取る必要あるか、書面で持ってきていただく必要があるか等、今後の検討課題としていきます。
	㊺	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有 している	8	0		
	㊻	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	9	0	今年度はこれから開催する予定。	
	㊼	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に 決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得た上で、児童 発達支援計画に記載している	5	1		基本的に身体拘束を行わない方針で運営していますが、現在ガイドライン等を法人で見直ししており体制の強化を行っていきたいです。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。